

日時：令和3年(2021年)2月4日(木)

午後1時～3時

場所：真庭市立中央図書館3階 会議室

- | |
|---|
| <ol style="list-style-type: none">1. 開会2. 協議事項<ol style="list-style-type: none">(1) 第2回図書館そだて会議の報告(2) 計画素案について3. その他4. 閉会 |
|---|

【開会】

事務局より

- ・ 傍聴者1名
- ・ 今後の予定
- ・ これまでの議論のふり返り

【議事概要】

1. 第2回図書館そだて会議の報告

- 資料1により事務局の説明
- 参加された委員より補足、感想。ほかの委員からの意見、感想など

2. 計画素案について

- 資料2, 当日資料により事務局の説明
 - ・ 計画名を「真庭市図書館みらい計画」としたい
 - ・ 14ページの機構図差し替え案について(当日資料2)
 - ・ 真庭市立図書館の現状について補足説明(当日資料3, 4)

筑波大の池内淳先生が作られた計算式で「公立図書館の望ましい基準」で示された目標値を算出

- ・ 延べ床面積は7館の合計面積
- ・ 資料費は目標値に届いていないが年間受け入れ冊数は目標値を上回っている。購入している資料の1冊あたりの単価が低い(専門的なものを購入できていない)可能性もある
- ・ 真庭の職員数を入れていない。当日資料2で単純に数えると50数人になるが地区図書館では館長が兼務であり、短時間の会計年度職員が多数いるため。実際に現場を切り盛りしている司書は13人程度である
- ・ 貸出冊数が目標値よりかなり低い。資料4の利用状況と合わせてみていただきたい
- ・ 今回議論していただきたい点
 - 素案6ページからの目標に対するアクションプランと14ページからの読書活動推進計画の現状と課題、サービス方針について

(会長)

当日資料 1 の構成案で整理する。素案第 2 章の 2 節は政策・施策レベルのざっくりとした内容、第 3 章は具体的な事業ベースの内容になっている。

国から自治体に策定が努力義務として課せられている「子ども読書活動推進計画」について、真庭市では子どもだけではなく大人も含めた真庭市民全体の読書計画を作ること。ただ、一つの計画の中に異なる計画が二本柱になると分かりにくいということで、基本計画の具体的な事業プランとして読書活動推進計画を書き込もうという考えであるとのことだ。

(委員より)

- ・ 指標と目標の部分。数値では測れない定性的な評価の取り方について。
- ・ 市の総合計画と整合性をとる必要がある。
- ・ 新しい学習指導要領における新しい教育観を踏まえられている。
- ・ 学校図書館の役割を市民に知っていただくことの大切さが書き込まれている。
- ・ 多様なメディアを使いこなす力への言及や、教員を対象とした図書館サービス充実、地域の知が集まる場所としての図書館の一つの方向性。
- ・ 乳幼児の保護者への働きかけや発信の大切さについてしっかりふれていただいている。
- ・ 日本語の分からない外国人や技能実習生等への働きかけ方法を考える必要がある。できることがあれば協力する。
- ・ 学びの場が広がるような一つの教材を様々な対象に使うと波及効果があると感じている。おもしろい教材を広く共有できるといい。
- ・ 蒜山の郷土料理を高校生が地域の人に教わりながら再現してアーカイブすると地域学と情報リテラシー教育となり GIGA スクールとも連携できるのではないか。
- ・ 総合計画で地域活動が縦軸で市民活動が横軸とあり二つの軸が交わる重要なところが図書館だと思う。
- ・ 使命や未来像など計画の根幹はシンプルに、アクションプランで詳しく、最後に読書活動推進計画でより細かくと整理していくとよい。

(計画について委員からの質問)

計画については誰のために作って誰が実行して誰が評価するのか。

(事務局)

市民のために市民と一緒に私たち市の職員が作り、職員と市民と一緒に図書館を育て、評価していくものと考えている。図書館そだて会議の場で、中央図書館長から「市民はユーザーではなくオーナーだ」とお伝えした。市民の発想で図書館を活用してもらい、ともに改善も行ってほしい。協働ですすめたい。

(会長) アクションプラン等に限らず自由に発言をお願いします。

(委員より)

- ・ 教育の効果はすぐには表れるものばかりではない。利用者から何を求められているのか、何を提供するのか、何をどのスパンでということを考えなければいけない。
- ・ 「図書館そだて会議」の参加者が少ない。参加者は自分にメリットがないと時間を割いてまで参加しない。コロナの状況でわざわざ集まらずオンライン開催など工夫を。

(事務局)

本計画に多様な視点を盛り込みたいと考え、こども園、学校、多文化、障がいのある子どもの施設などから委員に来ていただいた。それぞれに関わっている現場の意見をお聞きしたい。

(委員より)

- ・ 不登校の子どもは本人が一步を踏み出すのが難しい。図書館に来てもらうことを目標にするのではなく図書館から出向くことも必要。
- ・ LGBTQ など人に知られたくない人に対しては、自宅など安心できる環境から情報を手に入れられるとよいと思う。
- ・ マイノリティを多数派の方に引き寄せようとするのは多数派のエゴだと思う。
- ・ 市の他の計画との整合性はとれているか。前計画で行ったことの検証を行わないまま次の計画を作っているのではないか。

(事務局)

総合計画は今年度 12 月に見直し改訂した。教育振興基本計画と生涯学習基本計画は図書館基本計画より後に見直しの予定である。市として整合性を取りながら進めていく。

(委員より)

- ・ アメリカの図書館では評価が非常に重要視される。図書館そだて会議の資料を見ると一部の意見だとはいえ、「評価評価といってほしくない」という意見も見られたが、行政としては評価が必要だろう。
- ・ 素案のデータ集の進捗と課題を精査、検証して計画を立てるべき。
- ・ 評価しやすいように、評価軸に沿って被評価者を誘導してしまうこともあるので難しい。
- ・ 子どもから意見をもらうには、もらった意見を実現すること。図書館そだて会議で出た意見をひとつでも実現することが自分が図書館のオーナーだという意識につながる。
- ・ 行政ではやりにくいことをサポートしたい。
- ・ 図書館員が自己完結的に自分たちだけでやるのではなく、図書館はパートナーでありオーナーである市民の皆様を頼って、信頼して作っていく、謙虚に果敢にやることが今後の成功につながると思う。
- ・ 目標を共有して自分たちの場所でできることをやっていくことが大切。できたかどうかの評価というか充実感も必要。堅苦しくなく、こんなことができたねと集まって話すだけでもいい。
- ・ まちや図書館の未来を語るのであればこうした委員会も 10～20 代の人が入るべき。大人はそのサポート役として参画するのがよい。
- ・ 声をあげていない、あげられない、いろいろな立場の人の声聞くことが大切。意見を聴いてもらい、それが実行されたらさらにアイデアが出てくる。

3. その他

(事務局)

- ・ 計画に策定委員の皆様のコメントを掲載させていただき、ご協力を。
- ・ 第4回策定委員会は、2021年3月10日（水）午後1時より真庭市立中央図書館で開催予定

4. 閉会

以上